

栃木県埋蔵文化財 センターだより

C O N T E N T S

発行 平成26年6月10日
栃木県教育委員会
宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

2014
6月
だより



- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
黒袴台遺跡(佐野市) 黒袴前遺跡(佐野市)
- 市町教育委員会が実施した発掘調査から
甲塚古墳の機織り埴輪(下野市) 下野国分寺跡史跡整備終了(下野市) 唐沢山城跡国指定史跡(佐野市) 足利学校跡(足利市) 外城中台遺跡(小山市)
- 埋蔵文化財担当者研修会
- 平成25年度栃木県内発掘調査一覧及びその結果
- 巡回展 栃木の遺跡—最近の発掘調査成果から—

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から

1. 黒袴台遺跡(佐野市) - 三毳山のふもとに栄えたムラ -

黒袴台遺跡は、佐野市の三毳山西麓に位置します。かつては西側に越名沼が広がっていました。平成9・10年に発掘調査が行われ、遺跡の南半分の様子が明らかになりましたが、平成25年からは北半分の地区を発掘調査しています。縄文時代、古墳時代、平安時代、室町時代の遺構、遺物が発見されていますが、特に縄文時代早期の遺物が多く発見されています。早期は今から約12,000年前から7,000年前の時代で、土器は底が尖っているのが特徴です。黒袴台遺跡の土器は、栃木県から茨城県北・中部にかけて固有に分布しているもので、「出流原式」と呼ばれており、約8,500年前のものと考えられています。他にも「田戸上層式」と呼ばれる南関東に多い土器が発見されているので、他の地域との比較研究が期待されます。この時代の石器には片刃石器、石鏃がみられます。片刃石器は片面にだけ加工しているのが特徴です。土掘り具としての使いみちが考えられますが、もう少し時代が下ると石斧に取って代わられると考えられています。黒袴台遺跡では、地元の石であるチャートの他に、黒曜石でできた石鏃が発見されています。黒曜石は黒いガラスのような石で、矢板市高原山、信州和田峠、伊豆神津島などで産出し、交易などで持ち込まれたものです。しかも黒袴台遺跡では細かい破片も多数発見されていることから、石器を製作していたと考えられます。このような多量の土器の消費、交易、石器製作が行われた黒袴台遺跡は、縄文時代早期の拠点となるような大きなムラであったことが想定できます。



くろま橋遺跡の位置



出流原式土器 出土状況



黒曜石製の石鏃



片刃石器

2. 黒袴前遺跡（佐野市）-古代の窯跡発見か？-

遺跡は三疊山の西の麓にあります。黒色の土が2m近くも堆積する水びたしの低地で、1108年に噴火した浅間山の火山灰をはじめとする、旧石器時代から古代にいたる数々の火山灰が土中に含まれています。低地が形作られた時期はとても古く、火山灰分析により2万5千年前までさかのぼることが判明しました。

調査では、土師器、須恵器、瓦などが大量に出土しています。生焼けの瓦や大きく歪んだ須恵器などもあることから、ここは窯で焼く際に失敗してしまった須恵器や瓦を捨てる場所だったのではないかと考えています。窯本体は発見できませんでしたが、おそらくここからそう遠くない場所に未知の窯があるのでしょうか。

奈良・平安時代、三疊山周辺は須恵器や瓦の一大生産地でした。人知れず埋もれている窯は、黒袴前遺跡のあたりにはまだたくさんあるのかもしれません。



黒袴前遺跡の位置



たくさん出土する瓦や須恵器



調査区（東から）

市町教育委員会が実施した発掘調査から

3. 下野国分寺跡史跡整備終了（下野市）-史跡公園オープン-

天平13(741)年、聖武天皇の詔により、下野国の中でも「好処」として選ばれ、現在の下野市国分寺に下野国分寺と国分尼寺が建立されました。建立から300年ほど国分寺は存続したと考えられますが、律令体制の崩壊などが原因となり全国の国分寺は衰退しました。

寛政12(1800)年頃に記された『日光道中壬生通分間延絵図』には「下野国分寺焼亡跡」として記され、明治時代には国分寺跡の研究の対象となっていました。その研究成果などから、大正10年に足利学校(足利市)・下野薬師寺(下野市)とともに栃木県で最初の国指定史跡になりました。昭和57年度から平成4年度まで県教育委員会により範囲確認の発掘調査が行われ、平成11～18年度まで(国分寺町・下野市)が、史跡整備のための発掘調査を実施しました。その成果をもとに、基壇表示等の史跡整備を行いました。

下野市教育委員会(0285-22-9668)



下野国分寺跡の位置



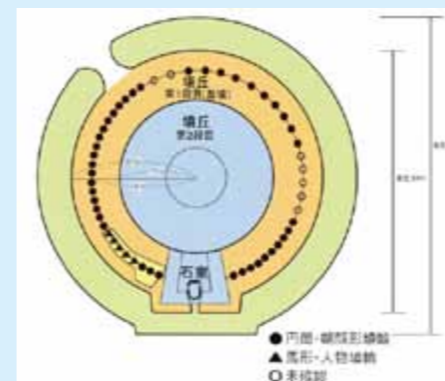
復元パース

4. 甲塚古墳出土の機織り埴輪（下野市）-全国初の発見-

下野国分寺跡の南側に甲塚古墳があります。この古墳は今から約1450年前の6世紀後半に造られた古墳です。国分寺が作られた後の時代の人達が、国分寺を守るための僧兵の鎧や兜を埋めた塚という伝承から甲塚古墳という名称がつけられたといわれています。隣接する下野国分寺跡の史跡整備に合わせて発掘調査を行いました。



甲塚古墳の位置



甲塚古墳模式図

この古墳は、1段目には幅の広い平らな面(平坦面)があり、2段目が帆立貝のような形をしている帆立貝形前方後円墳という形で、墳長が約80mあります。

円筒埴輪や朝顔形埴輪が幅広い墳丘第1段目の平坦面の真ん中付近に、前方部までほぼ円形に廻っている状況が確認できました。

古墳西側のくびれた部分の付近からは、馬や人物のかたちをした形象埴輪群や多くの土器群が出土しました。

なかでも人物埴輪の中心の7・8番目に設置されたものが、機織機で布を織る人物(女性)を表現したもので2種類のタイプが出土しています。人物埴輪7は、地機で、ユネスコ世界無形文化遺産の結城紬を織るために使用されている機織機につながる原型タイプの機織機です。人物埴輪8が地機より前から使用されていた原始機という機織機です。この2種類の埴輪が日本初出土のものになります。

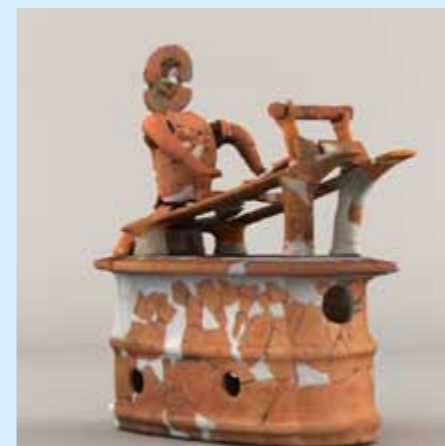


人物埴輪7・8確認状況

機織機の部材は、甲塚古墳より前の時代の遺跡から木製品で出土していましたが、遺存状況が悪く全体像が判るものはありませんでした。しかし、機を織っている状態をかたどった埴輪が出土したことで、6世紀後半におけるこのような機織機の存在のみならず、組み立てられた様子が初めて明らかになりました。

甲塚古墳から出土した埴輪群が何を意味しているのかは、今後検討を重ねていかなければなりません。新旧2種類の機織形埴輪が形象埴輪列の中心付近に配置されるため、機織りが甲塚古墳の被葬者に重要なものであり、この被葬者が機織りに関わっていた人物であった可能性が考えられます。また、甲塚古墳から出土した埴輪群には彩色が残っており埴輪に塗られていた色彩も復元することができます。

下野市教育委員会(0285-22-9668)



人物埴輪7(地機)



人物埴輪7(地機)彩色復元



人物埴輪8(原始機)

5. 唐沢山城跡（佐野市）-国指定史跡に指定-

唐沢山城跡は中世から近世初頭にかけての佐野氏の居城です。標高 242 m の山頂本丸周辺には高さ 8m を超える高石垣などがたたずみありますが、これらの石垣は西日本の技術導入によって築かれたもので、関東では極めて珍しいものです。また、西麓の根小屋は南北約 1 km 以上続き、現在でも城主の下屋敷や家臣団屋敷と考えられる複数の区画のほか、大規模な堀や土塁、切岸等も残っています。

佐野市教育委員会では、平成 19 年度から国指定史跡化に向けた取り組みを実施して参りました。この結果、194ha を超える広大な面積を有する関東有数の大規模な山城で、山頂部の高石垣と山麓部の居館群が良好に残るなど、中世城館の展開を知るうえで重要との高い評価を文部科学省からいただき、平成 26 年 3 月官報に告示されて国指定史跡となりました。

佐野市教育委員会 (0283-61-1177)



唐沢山城跡位置図



南方上空から唐沢山城跡を望む



本丸南側の高石垣

6. 足利学校跡（足利市）-足利学校旧西堀の規模を確認-

足利学校は足利市の中心市街地に位置し、日本最古の学校として知られています。大正 10 年に国の史跡に指定され、現在は江戸時代中期の姿に復原され一般公開されています。

今回の調査は、平成 23・24 年度に確認された足利学校の旧西堀の北側の延長を確認する目的でトレンチによる確認を行いました。その結果、先の調査と同様に現況の西土塁直下にて旧西堀の一部が確認されました。これによって、西堀の規模は復原時期の江戸時代中期において推定で上幅約 7.2 m、深さ約 1.8 m、南北約 111 m を測り、現在の土塁とほぼ同じの向きに造られていたことが分かりました。また、西堀からは室町～江戸時代の瓦や磁器片および多量の石盤の破片、硯といった遺物が出土しました。

これまで西堀の位置および規模は、絵図や文献資料から推定されるのみでしたが、今回の調査によってそれらを裏付けるデータを得られたことは大きな成果であったと考えられます。

足利市教育委員会 (0284-20-2230)



足利学校位置図



西土塁下の西堀東側の立ち上がり
(西から)



西堀堀底付近出土の瓦（東から）

7. 外城中台遺跡（小山市）-古代人の知恵と技術にびっくり!!-

外城中台遺跡は、思川東岸の台地上に所在します。調査区は、平成 16・17 年度に発掘調査が行われた外城中台 1 号墳（7 世紀初頭）の南西約 50m の位置で、960 m² を調査しました。今回の発掘調査では、古墳時代後期の古墳 2 基のほか、中世の溝跡等が確認されました。2 号墳は、横穴式石室を備えた推定径 28 m の円墳でした。3 号墳は、横穴式石室を備えた、前方後円墳です。林に近い場所にあったため、後円部の盛土がわずかに認められました。石室は、天井石の大半は失われていますが、華麗に小口状に積み上げられた側壁、三枚の大きな板石を用いた鏡石、閉塞の状態も確認されるなど、保存状態は良好でした。石室内からは直刀、耳環、棗玉、勾玉が出土しています。

小山市教育委員会 (0285-22-9668)



外城中台遺跡位置図



横穴式石室掘り方



横穴式石室全景

埋蔵文化財担当者研修会

埋蔵文化財センターでは、市町の文化財担当職員等の資質の向上を目的として、毎年講師を招いて「埋蔵文化財担当者研修会」を行っています。

文化財の保護・活用、史跡整備や考古学の研究等をテーマとしてきました。近年では、東日本大震災後に取り組まれている文化財レスキューも取り上げました。

平成 25 年度は、昨年度に引き続き文化庁記念物課の調査官を招き、以下の内容で講演を行いました。

実施日 平成 26 年 3 月 7 日（金）

場所 栃木県庁内会議室

講師 文化庁記念物課 水ノ江和同調査官

演題 「発掘調査のてびき」について



研修会の様子

文化庁記念物課で刊行した「発掘調査のてびき」について、編集・刊行にいたる経緯および活用の仕方について、分かりやすい解説を受けました。「発掘調査のてびき」を発掘調査方法の標準としつつ、担当者が熟慮して調査することが必要であることが説かれました。



「発掘調査のてびき」

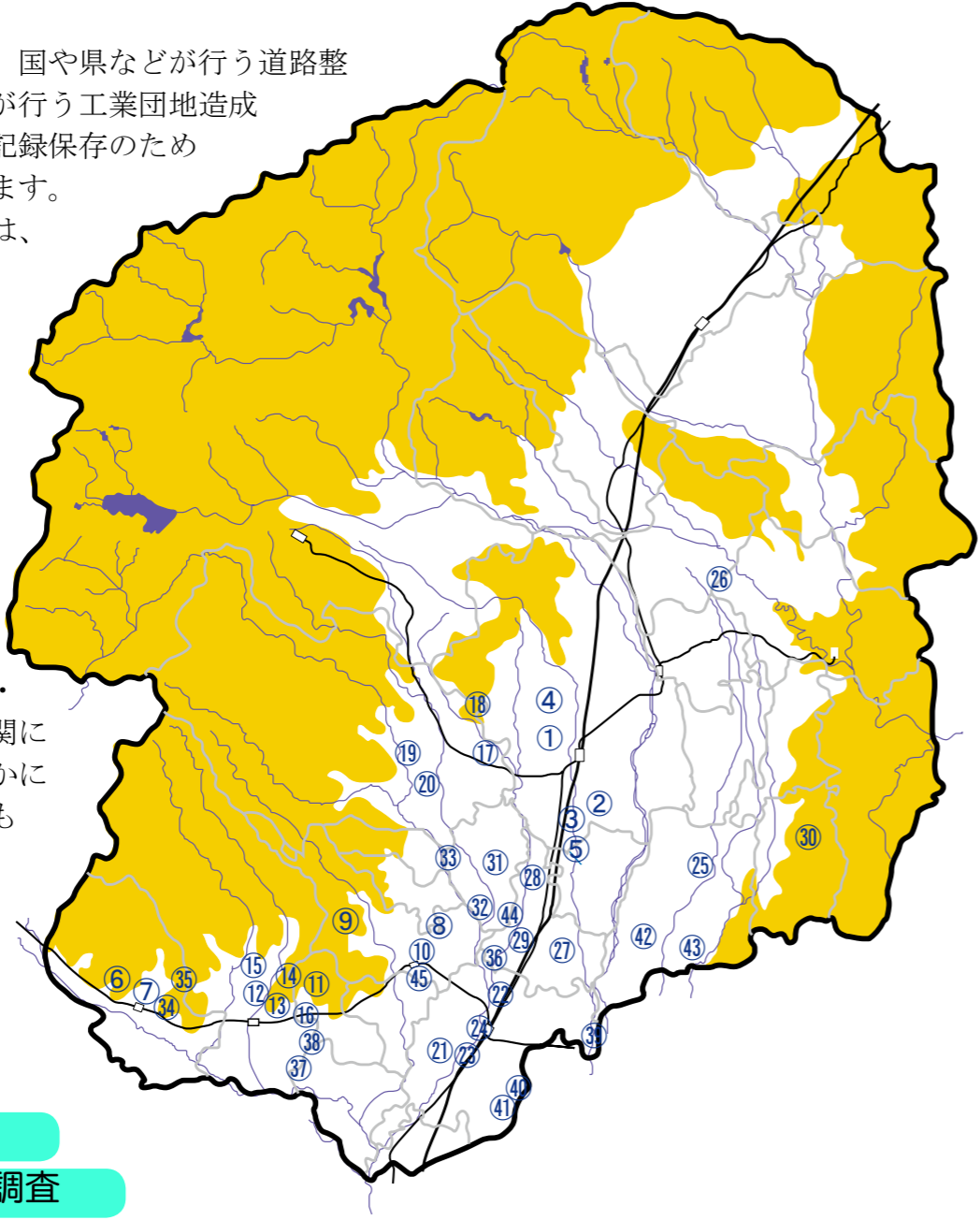
■ 平成25年度 栃木県内発掘調査一覧 ■

埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路整備や圃場整備事業や市町が行う工業団地造成などの、公共事業に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は、市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は遺跡の内容を明らかにするための発掘調査や、史跡整備のための発掘調査も行っています。

このほか、大学など県・市町教育委員会以外の機関による、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。



◎市町教育委員会が実施した発掘調査

●記録保存のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
①	宇都宮城跡	宇都宮市	近世
②	西刑部西原遺跡	宇都宮市	古代
③	茂原北原遺跡	宇都宮市	古代
④	大塚古墳群	宇都宮市	古墳
⑤	上神主・茂原官衙遺跡	宇都宮市	古代
⑥	行基平山頂古墳	足利市	古墳
⑦	鏝阿寺12坊跡	足利市	中世
⑧	藤原遺跡	栃木市	古代
⑨	五反田遺跡	栃木市	古代
⑩	栃木城跡	栃木市	中世
⑪	下門辰巳遺跡	佐野市	古代
⑫	田沼城跡	佐野市	中世
⑬	堀米遺跡	佐野市	古代
⑭	奈良淵古墳群	佐野市	古墳
⑮	傾城塚遺跡	佐野市	古代
⑯	摘田遺跡	佐野市	古代

番号	遺跡名	市町名	主な時代
①	宇都宮城跡	宇都宮市	近世
②	西刑部西原遺跡	宇都宮市	古代
③	茂原北原遺跡	宇都宮市	古代
④	大塚古墳群	宇都宮市	古墳
⑤	上神主・茂原官衙遺跡	宇都宮市	古代
⑥	行基平山頂古墳	足利市	古墳
⑦	鏝阿寺12坊跡	足利市	中世
⑧	藤原遺跡	栃木市	古代
⑨	五反田遺跡	栃木市	古代
⑩	栃木城跡	栃木市	中世
⑪	下門辰巳遺跡	佐野市	古代
⑫	田沼城跡	佐野市	中世
⑬	堀米遺跡	佐野市	古代
⑭	奈良淵古墳群	佐野市	古墳
⑮	傾城塚遺跡	佐野市	古代
⑯	摘田遺跡	佐野市	古代

■平成 25 年度栃木県発掘調査結果■

昨年度、栃木県内では一覧表に示した 38 件の発掘調査が実施されました。

これまでの市町による遺跡の保存、活用に対する取り組みの成果が実を結んできました。平成 11～18 年度まで行われた史跡整備のための発掘調査の成果をもとにした下野国分寺跡の整備が完了しました。平成 19 年度以降の確認調査により城郭や家臣団の屋敷跡を把握し、シンポジウム等を開催して、中世城館の展開を深化させた佐野市唐沢山城跡が、平成 26 年 3 月に国の史跡に指定されました。平成 25 年度も、市町による史跡整備のための発掘調査が 3 件行われました。全長 123 m、栃木県内最大級の前方後円墳である小山市の琵琶塚古墳では、括れ部で埴輪列を確認しました。

学術調査では、國學院短期大学による栃木市の城内古墳 1 号墳の発掘調査が行われました。全国 3 例目、東日本初の発見となる、樹木が線刻で描かれた埴輪が出土して注目を集めました。

開発工事の増加により、記録保存のための発掘調査の件数が平成 24 年度より増えています。市町が行った記録保存のための発掘調査は 33 件ありました。下野市道金林遺跡では縄文時代の陥し穴が発見され、縄文時代の狩り場であったことが判りました。壬生町藤江 2 号墳と小山市外城中台遺跡では、古墳時代後期の横穴式石室が良好な状態で残っており、その構造を明らかにすることができました。宇都宮城跡、真岡城跡、壬生城跡、祇園城跡、栃木城跡、田沼城跡など城館跡の調査が多く行われました。下野市の雲雀台遺跡では薬師寺館跡のものと考えられる薬研状の堀を調査しました。

埋蔵文化財センターでは 8 遺跡を調査しました。平成 25 年度は、佐野市と小山市から委託を受け、工業団地造成に係わる発掘調査を行いました。佐野市黒袴台遺跡では、旧石器時代から中世におよぶ複合遺跡で、縄文時代早期の濃密な遺物包含層と 10 基以上の古墳が注目されます。小山市西高橋遺跡では、円墳 17 基と帆立貝形古墳 1 基を調査しました。両遺跡とも、今年度も調査が継続されます。県の土地改良事業（水路部分）に伴う真岡市くるま橋遺跡では、終末期の方墳を確認し、芳賀地方の古墳終末期の様相把握に有意義な成果をあげることができました。

◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑳	雲雀台遺跡	下野市	古代
㉑	横塚古墳	下野市	古墳
㉒	道金林遺跡	下野市	古代
㉓	真福寺古墳群	益子町	古墳
㉔	国谷馬場遺跡	壬生町	古代
㉕	壬生城跡	壬生町	中世・近世
㉖	藤江2号墳	壬生町	古墳

番号	遺跡名	市町名	主な時代
㉗	黒袴台遺跡	佐野市	縄文・古墳・中世
㉘	黒袴前遺跡	佐野市	古墳
㉙	西高橋遺跡	小山市	古墳
㉚	横倉遺跡・横倉戸館古墳群	小山市	縄文・古墳・中世
㉛	金山遺跡	小山市	古代
㉜	くるま橋遺跡	真岡市	古墳・古代
㉝	市ノ塚遺跡	真岡市	古墳・古代・古代
㉞	国分寺愛宕塚古墳	下野市	古墳

●史跡整備等のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
㉟	足利学校跡	足利市	中世・近世
㊱	樺崎寺跡	足利市	中世
㊲	琵琶塚古墳	小山市	古墳

◎その他の機関が実施した遺跡の内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
㊳	城内古墳1号墳	栃木市	古墳
	調査主体	國學院短期大学	

■平成26年度巡回展 栃木の遺跡 ー最近の発掘調査成果からー

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されております。その成果をできるだけ早く、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展 栃木の遺跡」を開催しております。今年は県南・県央・県北の県立3施設において、下記の日程で開催します。ぜひ、ご来場ください。

..... 展示遺跡と主な展示資料

縄文時代

- 黒袴台遺跡（佐野市）縄文土器、石器
- 北ノ内遺跡（市貝町）縄文土器

弥生時代

- 横倉遺跡・横倉戸館古墳群（小山市）弥生土器
- 針ヶ谷新田遺跡（宇都宮市）弥生土器

古墳時代

- 黒袴台遺跡（佐野市）土師器
- 星の宮遺跡（市貝町）土師器・須恵器
- 横倉遺跡・横倉戸館古墳群（小山市）土師器
- 藤井馬場遺跡（壬生町）土師器
- 西高椅遺跡（小山市）埴輪・土師器
- 琵琶塚古墳（小山市）埴輪
- 行基平山頂古墳（足利市）前方後円墳
- 円通寺古墳（栃木市）埴輪
- 頼朝塚古墳（市貝町）須恵器

※都合により展示資料が変更になることがあります。



須恵器罏（西高椅遺跡）



縄文土器（北ノ内遺跡）



銅鏡（雲雀台遺跡）

古代（奈良・平安時代）

- 星の宮遺跡（市貝町）土師器・須恵器
- 下野国分尼寺跡（下野市）瓦
- 雲雀台遺跡（下野市）土師器・須恵器

中世

- 雲雀台遺跡（下野市）内耳土器・青磁
- 樺崎寺跡（足利市）内耳土器・陶磁器
- 唐沢山城跡（佐野市）陶磁器・土器

❖ 開催館のご案内 ❖

栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
平成26年5月17日（土）～6月29日（日）
下野市国分寺993 TEL 0285-44-5049

○栃木の遺跡展示解説会
6月15日（日）15:00～16:30
※埋蔵文化財センター発掘調査報告会（会場同センター）のあと、資料館でセンター調査担当者が展示資料を解説します。

栃木県立博物館
平成26年7月19日（土）～9月15日（月）
宇都宮市睦町2-2 TEL 028-634-1311

栃木県立なす風土記の丘資料館
平成26年12月6日（土）～
平成27年2月15日（日）
那珂川町小川3789 TEL 0287-96-3366
○風土記の丘遺跡発表会
2月16日（土）10:00～ 定員60名

利用案内（2館共通）
開館時間 9:30～17:00
（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（祝日・休日を除く）
祝日・振替休日の翌日

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及資料課まで TEL 0285-44-8441